

1水～3金

伝道実践

主に、近隣の町での教会案内やトラクト等の配布、訪問伝道、関係づくりなどを行います。その他、介護施設やカフェ、イベント等での伝道ライブも行います。



11土

3.11 東日本大震災追悼記念礼拝

震災から6年。今年も追悼記念礼拝が行われます。亡くなられた方を偲び、被災した方々へ慰めと希望、そして神様からの祝福を届けるため、宮城県内の諸教会から集い、礼拝の時間が持たれます。

7火,8水,22水～24金

講義 聖書の教えるキリスト者像 永井 学院長

キリスト者としての在り方、また、どのような存在なのかなど、聖書の教えるキリスト者像について学び、説教の実践演習をします。



13月～17金

研修旅行

第22期生～24期生のメンバーで卒業旅行も兼ねた研修旅行に行きます。現地の教会で奉仕したり、交わりをさせていただきます。

学院長のデスクから

春の到来を感じさせる季節、年度末を迎え、さまざまなお働きに励んでおられることと思います。皆さまのお祈りとご支援の中で、私どもも本学年度を無事終えようとしております。

来月からは始める新年度へ向けて、その準備を進めておりますが、より一層、神の宣教の拡大のために、私ども拡大宣教学院がその歩みを進めていくことができますよう、ぜひとも応援ください。

先月、お知らせしましたように、火災の修復のために経済的な必要を抱えております。特別に覚えてご支援いただけましたら幸いです。

皆さまの主とともに歩む毎日が、祝福に満ちあふれたものとなりますように！

学院長 永井信義



火災箇所をブルーシートで養生中

編集後記

2011年3月11日の「東日本大震災」から6年が経ち、昨年4月14日に起きた「平成28年熊本地震」から1年が経とうとしています。熊本・大分の被災地は勿論のこと、東北の被災地においても、まだまだ支援やケアが必要な方が沢山います。

私は、東日本大震災のとき福島県いわき市に住んでおり、原発事故をきっかけに家族で避難することを決めました。しかし、私のなかで「このまま避難して良いのか?クリスチャンとして出来る事があるんじゃないか?」という思いが、ずっと渦巻いていました。そこに追い打ちをかけるように、私が受洗した教会で支援活動を始めたという情報が入ってきました。私は、さらに避難することに疑問を抱きました。そしてそれは、避難先でも僕につきまといました。そんななか、本当に神様の不思議な導きと計画によって、避難先の教会の牧師と副牧師と一緒に、なんと!? その支援活動を始めた教会に支援物資を持って、一週間ボランティアに行くことになりました。(ハレルヤ!! 主は本当に素晴らしい!!)

現在、私は被災地支援を行っているNPO団体でアルバイトをさせて頂いており、主に福島県南相馬市(震災の被害に加え、原発事故で一部避難区域となった)で子どもの心のケアを目的とした活動を行っています。そうして子ども達や親御さんたちと関わるなかで感じるのは、まだまだ支援が必要だと、特に自尊心や家族関係の回復や癒しに繋がる支援が必要だということです。

今月号の表紙は、そのようなことも含め、まだまだ日本に「祈り」が必要だという思いを込めて、日本の明るい未来をイメージし、日本を象徴する富士山の夜明けと、そこに掛かる希望の虹の写真を使用しました。

Pray for Japan!! ぜひ日本のために主に期待し、希望を持って祈っていきましょう。

東海林 真



Kakudai Mission Institute No.343

Magnify

拡大宣教学院 機関紙 マグニファイ

Pray for Japan.

信じられないこと、信じるべきこと

イエス・キリスト福音の群 クロスロード・ゴスペルチャーチ/クロス・ゴスペルコミュニティ 牧師 金本 友孝 師



佐賀県鳥栖市のクロスロード・ゴスペルチャーチに着任して早、6年になろうとしている。その辺の事情は、私の2冊目の自叙伝『明日は来るのか』いのちのことば社発売(絶賛売れ残り中)をお読み頂きたいと思うが……。

さて、今年の2月5日から、日曜日の午後福岡県大野城市(鳥栖から車で40分ほどのところ)での礼拝を始めた。新規教会開拓である。その名は「クロス・ゴスペルコミュニティ」。

私は決して開拓伝道者ではない。とは言っても、開拓の働きをしたことがないわけではない。いやむしろ、すでに3回も、と言ってもいいかもしれない。いや、それは言い過ぎかもしれない。厳密には、開拓伝道者である永井明牧師(このゴスペルタウン拡大宣教学院の創設者)の開拓の働きを3回引き継いだということだ。一度目は、ゴスペルタウン(東北中央教会)開設後5年目(だったはず、私が学院の第一期生として卒業した後)、後任牧師兼、学院の院長代行として。のちに、永井明師による福島県いわき市での伝道が始まったが、その2年後に開拓引き継ぎを要請された。そして、2011年3月の東日本大震災～原発爆発事故(という信じられないような未曾有の大惨事の中)いわきから一時避難中に鳥栖のクロスロード・ゴスペルチャーチ(開拓6年目)の引き継ぎ要請(これもまた、アンビリーバブルなことだったのである)。

なんだかんだで、それら3か所の教会をなんとか後任者として責を果たしたつもりではある。鳥栖の教会も今、勢いがつき始め、礼拝出席が40人を望もうかとするに至った。実際のところは、まだ35人ほどであるから大したことはない。そんな状態での新規開拓とは私としては言わば「信じられないようなこと」(想像も出来なかったこと)だ。開拓になんか向いてない。望んでもいなかった。なのに、今度こそ本当にゼロからの開拓であるのだから。

思えば神様は、私の願わないことばかりを与え

てくれる。「祈れば全て願い通りになる」などという言説は、私には信じられない。主も、この世にあっては患難がある、と言われた。誰も患難など願ってはいないのに、だ。しかし患難はある。決して願いどおりにはならないのが「この世」だと言わざるを得ない。それは預言者ヨナにおいても明らかだ。ヨナは望まない(ニネベへの)宣教に無理矢理導かれた。結果、皮肉なことにその宣教は大成功し、ニネベは町をあげて悔い改めたが、当のヨナは地団太を踏んだのだから。

さて、その大野城での第一回目の礼拝には鳥栖の教会からの応援団も含めてではあるが、26人が集った。ますますの滑り出しと言えるのかもしれない。そこでの初のメッセージは、マタイの福音書の11章28節「すべて、疲れた人、重荷を負った人は私のところに来なさい。私があなた方を休ませてあげます」だ。疲れた人はみんな来い(元気な人は来なくていい)と言うのではなく、すべて疲れた人なんだから来い、と言っているのだ、と。しかも、それは、イエスに従う人々(真の神を信じるユダヤ人)に対して語られた言葉だ。なんと、真の神を信じているのに、みんな疲れ果てている。重荷を負って苦しんでいるというのである。それは、律法を守れ(言い換えれば、完全な人間になれ)という重荷のゆえだ。実は、それは今もクリスチャンを苦しめている。実際、神が完全であるように完全であれ、との御言葉(そこから派生する、クリスチャンはこうあるべき、という掟?)によって、苦しみ、傷付き疲れ果てて、教会から離れてしまったクリスチャンが多い、ということを見聞きする。もったいない、残念、悲しい、なんでそうなるの。せつかく主を信じたのに。主のもとに来れば休めるはずなのに、おかしいではないか。「ならば、ようし」と、鳥栖まで来れない人のために出かけて行って教会を立ち上げようと腰を上げた。

ただ単に、教会の数を増やしたいというのではない。必要なのは、疲れた人を休ませる本当の福音(それを信じるべき)なのだと思う。

CONTENTS

巻頭メッセージ

信じられないこと、信じるべきこと 金本 友孝 師

集会・奉仕レポート

第11回 東北 ケズィック・コンベンション

FCBC 礼拝奉仕

BOOK あらかると

第11回 東北ケズィック・コンベンション【青年大会】



会場の仙台青葉荘教会



賛美の奏楽奉仕チーム



青年大会メッセージ

ワーシップダンス

2月11日（土）に、日本キリスト教団 仙台青葉荘教会で行われた、東北ケズィック・コンベンションの青年大会に研修生、神学生と共に参加してきました。2月9日から3日間開催されていた集会の最終日のみの参加でしたが、東北にある様々な教会から、あらゆる年代の方たちが集まっていました。

青年大会では、アメリカから来られたアル・ウィットニングヒル師が、「エペソ人への手紙」の5章（1節、2節、8節～10節、14節～19節）からメッセージを取り次いでくださいました。ウィットニングヒル師は、特に18節の「**酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい**」を中心聖句として語ってくださいました。この18節の御言葉は、新約聖書のなかで一番重要だと言う人がいるほどで、この一つの御言葉に主によって従うならば、その他のあらゆる教えにも、従うことが出来ると言われていたそうです。この「命令」は、エペソの教会のみに言われたものではなく、イエス・キリストを主として愛する、すべてのクリスチャンに命じられているもの。「命令」というのは、何か別の大事なモノがあって、それに付随する「オプション」ではない。しかも、この箇所の原文から見ると、軍隊に使われる複数形の命令形で、しかも現在形で書かれているので、この「命令」は一度だけではなく、やり続けるという意味がある。聖霊に満たされることは、神ご自身に満たされることであり、自分を空っぽにする必要がある。それは、人間的な努力で得られることではない。だから私たちは、聖霊に求めなければならない。そう語って下さいました。

ウィットニングヒル師は、私たちクリスチャンやその家庭、また教会が、聖霊に満たされる必要があることに続き、そのためには何を必要とするかを語ってくださいました。その中で私が一番印象に残ったことは、ウィットニングヒル師が、中身の入った「コカ・コーラの缶」を手にして、それをシェイクし、缶を開けてコップに注ぐと、中身はミルクだったというマジック(?)を見せてくださったことでした。これは、「コカ・コーラ」というラベルが貼ってある缶は、「クリスチャン」というユニフォームを着ている私たちであり、何かのきっかけで自分の内側が「シェイク」つまり揺り動かされた時、私たちの内側からユニフォーム（ラベル）と同じものが出てくるかどうかかわらない。それが私たち人間の弱さである。ということを知りやすく教えるためのもので、それが私たちの実際の姿だからこそ、私たちは聖霊によって日々イエス様のように変えられなければならないと語ってくださいました。



コーラの缶からミルクが!?

続くメッセージの中では、下記の『聖霊に満たされる5つの恵みの条件』を教えて下さいました。

- ① 罪を告白し、器をいつもきれいにする。
- ② 罪を捨てる。いいわけにしていることはないか、自分を調べ、捨てるべきものを捨てる。
- ③ 降伏し、自分自身を捧げる。神に対して閉ざしていた扉を明け渡す。
- ④ 神に従うという心の姿勢を持つ。神を愛するがゆえに従いたいという気持ちを持つ。
- ⑤ ①～④を行って、ルカ11章13節の御言葉を信じ、聖霊を求める。

世界中のクリスチャンに「あなたの中には何が住んでいますか?聖霊に満たされていますか?」と主は語っておられるだけではなく、私たちが聖霊に満たされることを求めて生き、そして、それを人々に告知知らせる必要があると最後に力強く語ってくださいました。

私は今回、初めてケズィック・コンベンションという集会に参加しましたが、まさにしおりに書いてある通り、「わたしはどんなクリスチャンか」と自分自身を見つめる機会となりました。日々の信仰生活の中で私の内にある扉を一つ一つ明け渡して、御言葉に立ち、聖霊様の助けと満ちしをいつも求めて歩みたい!そして、そのことを伝える者へと変えられたい!と強く思われました。この機会をくださった、愛するイエス様に心から感謝します。

FCBC Sendai 土曜礼拝

【フェイスコミュニティ・バプテスト教会】

2月4日（土）仙台市街地にある「FCBC (Faith Community Baptist Church の略) 仙台」(以下 FCBC) という教会で礼拝の奉仕がありました。FCBC では、毎週土曜日の午後5時から礼拝が行われています。来ている方々も色々な国の人たちで、日本語と英語のバイリンガル礼拝でした。

今回の奉仕は、学生などによる賛美奉仕だけではなく、礼拝メッセージの奉仕もあり、我が学院長永井信義先生が、御言葉を取り次いでくださいました。「**ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くくださるためです。あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくさるからです。**」(1ペテロ 5:6,7)

神様の御手は力強い。神様に不可能はないからです。神様は「すべての思い煩いをゆだねなさい」と言っています。しかし、私たちは色々心配してしまいます。そして、自分の生活をコントロールしたい、自分で決めたい、選びたい、導きたいと考えます。どうしたらゆだねられるのか?ゆだねられないのは、へりくだっていないからです。私たちは、神様の「力強い御手」の下にいます。私たちの毎日の生活、人生そのものが神様のもの。神様は、私たちに何が必要か、何が大切かを知っておられます。だから過去も、将来もゆだねることが出来る。

神様にゆだねるとは、神様にお任せすること。大事なものは、すべて「私のもの」ではなく、「神様のもの」ということを理解し、受け止めること。神様にあらゆる感情、恐れや怒りさえも、すべてを打ち明けて祈る。どんなことでも祈る。神様は耳を傾け、聞いて、受け止めて下さり、最善をなしてくださいます。それが神様の仕事。だから私たちは、いつでも、どこでも神様に祈り、ゆだねる事が出来ます。そうすれば、ちょうど良い時に神様ご自身が、私たちを高くしてくださいます。神様がどこにいるのかわからない時でも、神様は力強い御手で私たちを引き寄せてくださいます。だから安心です。大丈夫です。心配ありません。私たちは、神様にすべてゆだねることが出来ます。

礼拝後には交わりの時間が持たれました。人種や世代が異なっても、神様を信じる信仰は同じなのだと思いました。このように、人種や世代を超えて共に礼拝し、交われる事、同じ神の家族とされていることに感謝します。

FCBC 仙台：カレブ&クリスティーナ・チャン牧師夫妻が牧会。東日本大震災の10日後に、カレブ師が被災地支援のため「FCBC シンガポール」から遣わされ来日。その後、夫婦で今の場所で牧会を始める。



賛美奉仕チーム：歌と踊りで主に賛美を捧げました。



御言葉を取り次ぐ永井学院長



礼拝後、コーヒーやお茶、近所のパン屋のパンやお菓子を頂きながら交わりました。

BOOK あらがる

永井信義



今回は一般の出版社からの書籍を紹介しましょう。ジョシュア・ベッカー著『より少ない生き方』(かんき出版)は、「人生をシンプルにして、本当に大切なことに集中できるようにするために」必要な考え方や知恵を提供してくれる本です。

著者は15年間、牧師としても仕えた人物で、本書の中には聖書からの引用が登場します。自分にあった「ミニマリズム」(著者による定義:「いちばん大切にしているものを最優先して、その障害になるものはすべて排除すること」)を実践することを励まししてくれる、おすすめの一冊です。

